

## 0630\_能登デジタルライフライン推進会議（概要）

- 日 時：令和8年6月30日（火）16:00-16:40
- 会 場：のと里山空港 4階 講義室 A
- 参加者：七尾市 茶谷市長、輪島市 坂口市長、珠洲市 泉谷市長  
志賀町 稲岡町長、穴水町 吉村町長、能登町 吉田町長  
石川県 山野知事、浅野副知事、番匠デジタル推進監

### 1. 知事挨拶

- ・これまで社会インフラ、ライフラインというのは電気、水道、ガスの3つが社会インフラといわれてきたが、今回の能登半島地震において、通信も社会インフラだと痛感。本協議会の意義は大きい。
- ・のとピットは登録者8400人、スポットが本日1000箇所には到達したが、市町の理解があったからこそ。
- ・7/1から夏トクキャンペーンや、先着5000人を対象に、新規登録で2000ポイントを付与等のキャンペーンを展開し、裾野をさらに拡大していく。

### 2. 能登でのライフライン構築に向けた事例紹介（浅野副知事）

【資料に基づき説明】

### 3. デジタルライフライン構築に向けたコメント（能登6市町首長）

【七尾市 茶谷市長】

- ・平時からデジタル技術を活用し、継続的な運用が不可欠であり、その一つがのとピット。復興期においては、外出の促進や孤立の解消、コミュニティの形成を助けるものになる。
- ・イベント会場限定のポイントを付与するQRが発行できれば、家に籠っている人達の外出のきっかけになるのではないかと考えている。

【輪島市 坂口市長】

- ・平時から電波の不感地帯も多い中で、スターリンクやHAPS等の新しい取り組みには非常に期待が大きい。
- ・のとピットは、災害時の情報把握、フェーズフリーで健康管理ができるということで非常に期待の大きい取り組みだと思う。

【珠洲市 泉谷市長】

- ・避難所管理システムをが県内全域に展開されるということになると、能登半島地震でも発

生した広域避難の対応もより一層スムーズになるということを期待。

- ・のとピットとは、平時から利用している仕組みが災害時にはスムーズな入所、また被災者支援につながることは本当に有効であると認識している。

**【志賀町 稲岡町長】**

- ・マイナンバーカードを持ち歩かなくても、スマホに搭載したという現在のシステムは大変よい。平時にこのシステムが普及していれば、今後の発災時にも役に立つと感じた次第で、本当にいい取り組みだと思っている。
- ・ドローンは、平時の点検作業において、フライトあたりに費用が掛かる認識。高頻度で飛ばした方が効果は高いと思っているが、単価次第では回数が減ってしまうと懸念。

**【穴水町 吉村町長】**

- ・のとピットの活用について、町民の方に馴染んでもらうには、行政としても、日常業務等で使える機会を増やす必要があるのではないかと考えている
- ・ドローンの話もあったが、平時の業務において、どう使いこなすか。意識していくので、今後この推進協議会の中で様々なご提案、情報をいただければと思う。

**【能登町 吉田町長】**

- ・先日、公民館で開催した避難所入所訓練において、のとピットの QR コード読み取りによる避難所管理システムのスムーズな入所手続きも確認している。この仕組みは平時の暮らしだけではなく、災害時も活用できるということを確認。
- ・町民の声としては、高齢者だけではなく、スマホを割と使いこなしている方にとっても少し登録が難しいという声があるので、その点は改善や支援を求めたい。

**【知事（首長のコメントを受けて）】**

- ・学生の力も借りながら、精力的に説明会を実施しているが、そこを技術的にも工夫しながら、より登録、交換をしやすいうように工夫することが、広げていく一つの方法。

以上